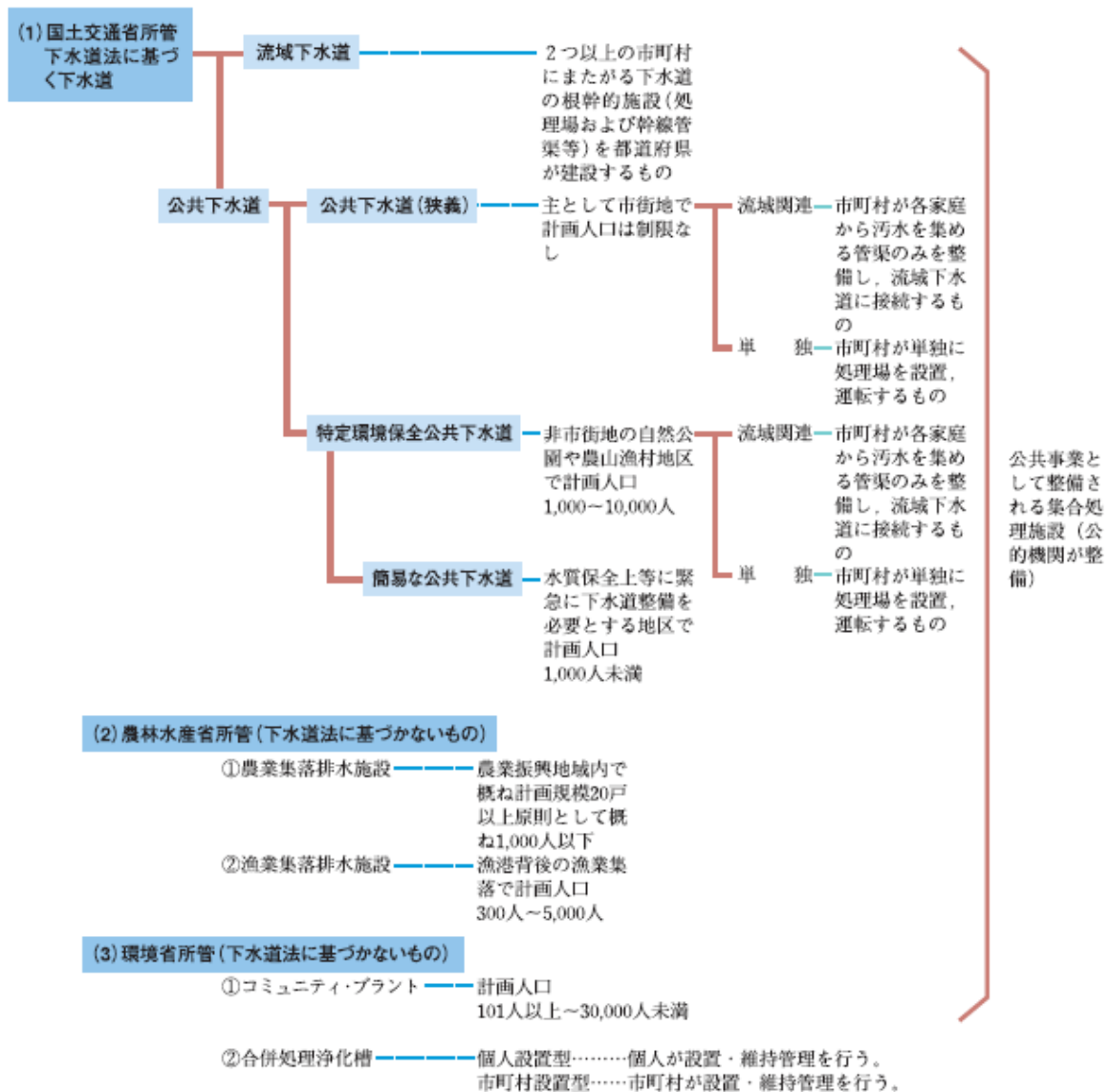


### 3. 生活排水処理施設の種類と特徴

#### ■生活排水処理施設の種類

一般に「下水道」といわれているものには様々な種類があり、図-1 に示すように国土交通省、農林水産省及び環境省の各所管により、各種の事業が実施されています。



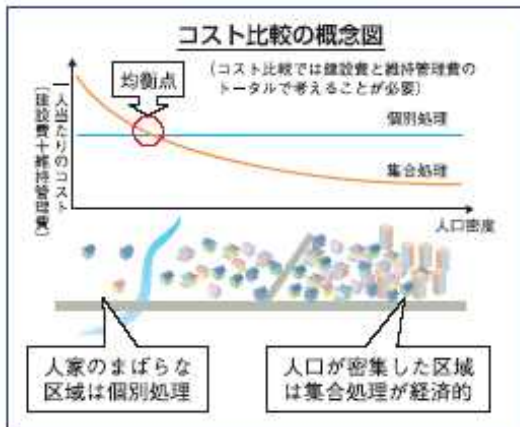
注) し尿と雑排水(台所や風呂などの排水)を合わせて処理する浄化槽が合併処理浄化槽です。これに対して、し尿のみを処理する浄化槽を単独処理浄化槽といいます。

図-1 下水道等の種類

## ■主な生活排水処理施設の特徴

| 項目        | 下水道  | 農業集落排水  | 合併処理浄化槽  |
|-----------|--|---|--|
| ①施設の特徴    | 大規模集中型集合処理方式<br>・ 管渠により汚水を収集し、処理場で一括処理                       | 小規模分散型集合処理方式<br>・ 管渠により汚水を収集し、処理場で一括処理                | 個別処理方式<br>・ 各家庭の敷地に浄化槽を設置し、排水を個別処理                         |
|           | 対象とする生活排水<br>・ 市街地全体の多種多様な(家庭,学校,事業所,工場)排水                   | ・ 主に農業集落の家庭排水   | ・ 主に各家庭の排水   |
| ②水質保全効果   | 安定した処理水質を確保<br><br>(地方公共団体が維持管理)                             | 安定した処理水質を確保<br><br>(公共団体などが維持管理)                      | 市町村設置型では、市町村が維持管理<br><br>個人設置型では、個人が維持管理                   |
|           | 高度処理への対応<br>霞ヶ浦,利根川流域の処理場で実績あり                               | 霞ヶ浦流域の処理場で実績あり  | 霞ヶ浦流域:<br>高度処理型浄化槽の設置を義務化<br>涸沼・牛久沼流域:<br>補助により設置を促進       |
| ③経済性      | ・ 市街化区域など人口密度の高い区域では、汚水処理にスケールメリットが働き、経済効率が良い。<br>・ 耐用年数が長い。 | ・ 家屋の密集した集落では、汚水処理にスケールメリットが働き、経済効率が良い。<br>・ 耐用年数が長い。 | ・ 家屋の散在した集落では、長い管渠を敷設する必要がある集合処理よりも、経済効率が良い。<br>・ 耐用年数が短い。 |
| ④標準的な償却年数 | 処理場33年 管渠72年   | 処理場33年 管渠72年  | 26年  |
| ⑤供用開始時期   | 通常5～20年程度<br>事業規模が大きいため、末端部において供用開始が遅れる。                     | 通常5～6年程度<br>比較的早期に供用開始が望める。                           | 通常1週間～10日程度<br>すぐに汚水処理の効果が望める。                             |

## ■地域特性に応じた整備手法の選択



## ■処理システムの比較 (下水道・合併処理浄化槽)

